

特集

世界を変えるための17の目標
いま知っておきたい
SDGsの話



『シャンティ』連巻298号 2019年1月1日発行(1・4・7・10月の1日発行) 1985年6月28日 第三種郵便物承認

巻末
言

道



公益法人の 監事の役割

シャンティ国際ボランティア会

監事 野中 茂 (野中公認会計士事務所 所長)

学生時代、ソビエト連邦を経てヨーロッパを放浪。卒業後、米国系監査法人の税務部門で、関与先の税務申告の為、アジアやアフリカを訪問。プライベートも含め今日までに訪れた国・地域は36に及びます。

中でも一番悲惨な国がカンボジアでした。支援の一助と思い、とある奉仕団体に入会。団体が定めた「識字率向上月間」の卓話講師を探していたところ、カンボジアで人身売買撲滅に取り組む「かものはしプロジェクト」の村田共同代表からシャンティをご紹介頂きました。卓話にお越し頂いたのが市川常務理事でした。村田さんとの雰囲気の違いに若干戸惑いつつも、会場は(感動で)シーンと水を打ったようになったのを今でも覚えています。その時、シャンティが監事を探しているとお聞きし、バーター取引のような形でお引き受けしました。

以来、本部はもとより、海外の事業地にも赴き、監事監査を実施。その度にシャンティの役員職員の皆さんが、公益法人としてのミッション(使命)・パッション(情熱)・ドリーム(夢)(ミ



2016年6月 ミャンマー(ビルマ)難民キャンプで撮影

パド)をもって活動されている姿に胸を打たれました。

当会は、2011年に内閣総理大臣の認可を受け、公益社団法人に生まれ変わりました。それにともない、法人・個人ともに一定の寄付に対して所得控除や税額控除といった税制上の恩典も付与され、しっかりとしたガバナンス(自己統治)やコンプライアンス(順法性)が今まで以上に求められるようになりました。

監事の権限と責任も強化され、主な役割は、次のようなものとされています。「監事は、理事の職務の執行を監査し、計算書類及び事業報告等を監査する。その為、理事会等への出席義務を果たして法人の業務運営状況を把握し、法令・定款に違反する決議や著しく不当な決議等が行われるのを監視する職責を負う」

国等をはじめ様々な支援団体や個人の方々から頂く資金は「公金」であり、適切な内部統制のもとで運用されるべきものです。微力ですが、今後ともコンプライアンスを順守した法人運営の一助となるべく、努力して参りたいと思います。



「SDGs」という言葉、聞いたことありますか？ 名前は知っていても、SDGsとは何なのか、人に説明するのは自信がない、という方も少なくないのでは。

「経営とSDGs」、「投資とSDGs」、「仏教とSDGs」など、さまざまな分野や業界で使われているSDGs。企業や行政、NGOなど、組織の壁を越えて連携するための「世界共通言語」とも言われています。

2030年までに、世界中が協力して達成しなければならぬ世界共通の目標について、一緒に考えてみませんか？

Shanti vol.298 CONTENTS

- 4 特集
世界を変えるための17の目標
いま知っておきたいSDGsの話
- 16 世界の絵本を読んでみよう
「マイナ鳥と不思議なかぼちゃの種」
(アフガニスタン 2013年出版絵本)
- 18 世界のおやつ旅
アフガニスタンのおやつ/
グシュトフィルとハジャール
- 19 世界の現場からAIRMAIL
From 活動の現場
▶BRCミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
▶アフガニスタン
- 28 シャンティな人たち
豊田通商株式会社
- 30 これがわたしの宝もの
ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ
エポ・クレイ「猫のワー・ワー・ポー」
- 31 お知らせ
- 32 道「公益法人の監事の役割」
監事 野中 茂(野中公認会計士事務所 所長)



今号の表紙
ミャンマー・ピーにて。
2015年撮影
©Yoshifumi Kawabata

カンボジア・
ブンベンスラムにて。
2015年撮影
©Yoshifumi Kawabata



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

世界を変えるための17の目標 いま知っておきたい SDGsの話

みなさんはSDGsを知っていますか？

SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、世界の国々が話し合い、2030年までに世界が取り組むべき17の目標として2015年9月に国連総会で採択されました。この目標、実は新しいものではなく、2000年から2015年に掲げられたMDGs(ミレニアム開発目標)の目標や指標が含まれています。

MDGsは、開発途上国の貧困・教育・健康・環境などの改善に一定の成果を挙げたものの、世界共通の新たな課題への対応が必要となりました。

そこで、MDGsを現状に即して拡張し、先進国と途上国を問わず、世界が一九丸となって達成すべき目標を加え、新たに策定されたのがSDGsです。

目標達成のために私たちにできることについて、一緒に考えていきたいと思います。



<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>すべての人に健康と福祉をあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>安全な水とトイレを世界中にすべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>働きがいも経済成長も包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>住み続けられるまちづくりを包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>
<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> <p>陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>

17の大きな目標

1 貧困をなくそう

貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

4 質の高い教育をみんなに

質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

12 つくる責任 つかう責任

つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する

15 陸の豊かさを守ろう

陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

2 飢餓をゼロに

飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

5 ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

12 つくる責任 つかう責任

つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する

15 陸の豊かさを守ろう

陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

3 すべての人に健康と福祉を

すべての人に健康と福祉を すべての人に健康と福祉をあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

6 安全な水とトイレを世界中に

安全な水とトイレを世界中に 安全な水とトイレを世界中にすべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

8 働きがいも経済成長も

働きがいも経済成長も 働きがいも経済成長も包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

11 住み続けられるまちづくりを

住み続けられるまちづくりを 住み続けられるまちづくりを包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

14 海の豊かさを守ろう

海の豊かさを守ろう 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

17 パートナリシップで目標を達成しよう

パートナーシップで目標を達成しよう パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

SDGsは、「17のゴール(目標)」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。

貧困や飢餓、働きがい、経済成長、気候変動など、世界が抱えるさまざまな課題が網羅されているのが特徴ですが、決してバラバラに設定されたものではありません。

「目標4 質の高い教育をみんなに」を達成するための取り組みは、知識やスキルを身に付け職業を得ることや、女子教育の普及などにつながり、貧困からの脱却(目標1)や女性の権利向上(目標5)やジェンダー平等(目標5)の目標達成にもつながります。

SDGsは課題の集合体であると同時に、相互に関連し合った包括的な目標でもあります。

そして、この目標を達成するには、すべての国、企業、個人、あらゆる人々の協力と参加が不可欠です。



目標 4

「質の高い教育をみんなに」

幼児と思春期の子どもの過半数は、最低限の読み書きや計算能力を身に付けていません。2015年時点で、7億5,300万人の成人(15歳以上)が読み書きできない状態にあり、その3分の2が女性です。読み書きや計算ができないと、農業や保健衛生など生きるために重要な情報を得られず、良い職に就けず、貧困から抜け出せない原因にもなっています。

日本企業の /

SDGs 取り組み事例

パナソニック株式会社
「ソーラーランタン10万台プロジェクト」

世界で約12.1億人が電気のない生活を送っていると言われています。これらの人々が直面する社会課題を解決するため、自社の技術や製品を活用し、人々の生活の質の向上に活用してもらい取り組みです。シャンティは、ボル・ボト政権時代の影響で読み書きができない大人たちが通うカンボジアの無電化地域の夜間識字教室で、パナソニックから寄贈されたソーラーランタンを利用しています。



ソーラーランタンは、子どもの学習や成人の識字教育、安全な出産や治療、所得創出など、夜間のさまざまな活動に有効に活用されています。村に明かりをもたらしただけではなく、夜間に学ぶ母親たちを支え、道を切り拓く力になっています。



目標 2

「飢餓をゼロに」

栄養不良に陥っている人々は、2015年の7億7,700万人から2016年の8億1,500万人へ増大しています。世界にはすべての人が食べられるだけの十分な食料がありますが、毎年生産される40億トンの食料のうち3分の1が失われ、経済損失は年間7,500億ドルにのぼります。先進国では消費段階で廃棄され、途上国では貯蔵設備の整備不十分で、農家が作物を市場に届けられず、作物が手つかずの状態が無駄になっています。

今からトライ

SDGs アクション!

「食品ロス」を減らす
エコレシピに挑戦!

日本では「食品ロス」(まだ食べられるのに捨てられている食べ物)が、年間約621万トン発生しています。日本人一人当たり、毎日お茶碗1杯分を捨てていることとなります。食品ロスを減らすため、「エコレシピ」に挑戦してみたいかがでしょうか。エコレシピは、多額の廃棄物処理コストを削減する取り組みとも考えられており、各市町村や行政が紹介するケースが増えています。



消費者庁は、各地方公共団体から寄せられた「食材を無駄にしないレシピ」を多くの人に伝えるため、料理レシピサイト「クックパッド」で紹介しています。

経済成長だけでは
解決できない
「社会」課題



SDGsは、経済・社会・環境の課題を総合的に解決することの重要性が示されています。目標(ゴール)1~6は、MDGsで掲げた「貧困課題の解決」を現状に即して拡張した目標です。1999年以来、約10億人が極度の貧困から脱していますが、2015年時点、約7億3600万人が未だ困窮していると言われています。

©Yoshifumi Kawabata



*1 出典: 世界銀行

*2 出典: 「グローバル エデュケーション モニタリング レポート 2017/8、ユネスコ」



目標 12

「つくる責任
つかう責任」

製品の製造や購入、生産者の労働環境や生活まで配慮し、持続可能な生産消費形態を確保することが掲げられています。

やってみよう

SDGsアクション!

SDGsとフェアトレード

作る人も、販売する人も、買う人もうれしい買い物を



国際フェアトレード認証ラベル

日本には、「三方よし」という言葉があります。売り手と買い手はもちろん、作り手（生産者）にとっても良い取引であることが求められています。この「三方よし」は「フェアトレード」の概念にとっても似ています。

フェアトレードには、作り手の人権が尊重され、強制労働・児童労働の排除、公正な取引、環境保全などに配慮しているかなど、SDGsの各目標に関連した要素が盛り込まれています。

そんなフェアトレードは、2020年東京で開催されるオリンピック・パラリンピックの農産物の調達基準にも選ばれています。SDGsに沿った大会運営を目指し、「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」が策定され、「国際フェアトレード認証」などの認証基準を元に、選手村の食堂や競



目標 8

「働きがいも
経済成長も」

「働きがいも経済成長も」には、強制労働や児童労働の根絶、目標10「人や国の不平等をなくそう」には、年齢、性別、障害、人種、民族、宗教などで差別しないことなどが盛り込まれています。



MDGsは国連や各国政府など、途上国における開発や貧困課題の解決を中心とした目標でしたが、SDGsでは、「誰一人取り残さない」をキャッチフレーズとし、途上国に限らず、あらゆる人々の持続可能性が目標に組み込まれています。特に目標7〜12の達成は、先進国の企業や消費者の協力が不可欠な目標となっています。

持続可能性が
求められる
「経済」成長



©Yoshifumi Kawabata





「環境」問題 関心が高まっている

1990年代からオリンピックの大会施設建設に伴う自然破壊に批判が集まり、環境を意識した大会運営が注目されはじめました。1996年にはオリンピック憲章に「環境問題」と「持続可能な開発」が宣言されました。

2017年に実施された「SDGs認知度調査」では、17目標のうち、どの目標に関心があるかという設問に、27%が「目標13・気候変動に具体的な対策を」と回答しています。豪雨被害や台風の直撃など、より身近に感じやすい自然災害が頻発しているため、気候変動に対する関心が高まっているのかもしれない。

*（株）クロス・マーケティング「SDGs認知度調査」2017

進む企業の取り組み

毎年800万トン以上のプラスチックごみが海に流れ込んでおり、微生物に分解されないプラスチックはそのまま海中に存在し、生態系に影響を与えています。

スターバックスコーヒーやイケア、すかいらーくホールディングスなどがプラスチック製の使い捨てストローなどの使用停止を表明しており、企業の「脱プラスチック」の取り組みが増えています。

日本企業の / SDGs 取り組み事例

©Yoshifumi Kawabata



花王株式会社 「持続可能なパーム油」の調達

目標 15

洗剤や化粧品などの原料として使われるパーム油は、熱帯地域に生息するアブラヤシから採れます。しかし、世界的な需要拡大にともない、アブラヤシの農地をつくるため森林が違法に伐採されるなど、自然破壊が深刻な問題となりました。森林が壊されることがないよう、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロを目指した調達ガイドラインを定めています。



GOOD DEAL COMPANY 「TOKYO CORK PROJECT」

目標 15

遮音性や耐水性、耐熱性が高く、ワインの封や家の断熱材などに使用されるコルク。東京都だけで年間600トン以上のコルクが廃棄されています。そんなコルクを回収し、鍋敷きやコースターや壁材などのインテリア、こども用のおもちゃなどに再利用されています。コルクの原産国ではない日本のエネルギーミレージの課題解決への貢献も期待できる取り組みです。

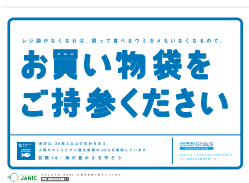


今からトライ SDGs アクション!

SDGsの認知を高めるため、国際協力NGOセンター（JANIC）が制作したSDGs理解向上ツール「ひとこと多い張り紙」を掲示したり、張り紙に書かれたことを実践してみましよう。

目標 14

例えば
こんなこと /



海洋は、30億人以上の生計を支え、人間がつくりだす二酸化炭素の30%を吸収しています。レジ袋がなくなれば、誤って食べるウミガメもいなくなるので「お買い物袋をご持参ください」。

SDGsとシヤンティの関係

シヤンティは、目標4「質の高い教育をみんなに」を実現するため、教育課題の解決に取り組んでいます。学校へ通うことだけを目指しているわけではありません。識字や計算など働きがいのある仕事に就く可能性を高める「認

知スキル」と、創造性や思考力、問題解決力、協調性など、社会で協調して取り組むために必要な「非認知スキル」を伸ばす学習の機会を提供しています。そして「目標4」だけでなく、SDGsのさまざまな目標・ターゲット達成に向けた取り組みを行っています。

シヤンティが関係している主なSDGsの目標とターゲット

- 目標 4**
 質の高い教育をみんなに
 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
 ターゲット 4.1 初等教育及び中等教育の修了
 ターゲット 4.2 乳幼児の就学前教育
 ターゲット 4.3 技術教育、職業教育、高等教育への平等なアクセス
 ターゲット 4.6 若者及び成人の読み書き能力・計算能力の習得 など
- 目標 1**
 貧困をなくそう
 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標 5**
 ジェンダー平等を実現しよう
 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

- 目標 8**
 働きがいも経済成長も
 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
- 目標 11**
 住み続けられるまちづくりを
 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- 目標 12**
 つくる責任 つかう責任
 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標 16**
 平和と公正をすべての人に
 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- 目標 17**
 パートナリシップで目標を達成しよう
 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



SDGsと図書館

図書館はSDGsを達成するための、重要な機関の一つです。目標16「平和と公正をすべての人に」に明記された情報への公共アクセスの確保により、人々が情報を活用して必要な知識を得ることで、生活を向上させることができるようになります。例えば、貧困や不平等の解消、農業の改善、質の高い教育の提供、文化の保護など、情報通信技術を活用することで、課題解決のための支援を進めることができます。

シヤンティの活動地タイ国境のミャンマー(ビルマ)難民キャンプでは、難民の帰還に向け、タイ・ミャンマーに関する情報を図書館に設置したパソコンや、図書館の前の掲示板に定期的に掲示した結果、難民自身が必要な情報を手でできるようになりました。掲示する情報は、難民キャンプ内の支援組織やミャンマー国内などから収集しています。図書館は多様な人や組織をつなげることで地域の人たちの未来の選択を広げています。

©Yoshifumi Kawabata



必要性 パートナリシップの

「死ぬまでに自分で本を読みたい」と話すのは、カンボジアの農村で暮らすおばあさん。このおばあさんは、学齢期は貧困のため、その後はカンボジア国内の内戦から命を守るために逃げる日々を送り、戦争が終わった後は、家族を養うために懸命に働いた結果、学校に通うことができませんでした。しかし、シャンティがカンボジアで行う、コミュニティライティングセンターの識字教室を皆勤賞で卒業。今では文字を指でなぞりながら、自分の力で本を読むことができるようになりました。

「みんなで見たい
SDGsは
未来のカタチ」

た家族、難民キャンプ内のコミュニティ図書館で、はじめて絵本に触れた女の子。他にも、各国で行っている学校建設により、村に小学校ができたことで、学校に通うことができるようになった子どもたちがたくさんいます。数えきれない人びとの学びと人生を支えることができるのも、シャンティを通して多くの日本の方々の思いが現地



まとめ

クラフトエイド

伝統文化を守るため、伝統的な刺繍や柄を生かしたフェアトレード商品を開発し、販売しています。商品を購入することで、生産者が安定した収入を得られ、子どもたちがより良い教育を受けられるようになります。



絵本を届ける運動

本は、知らない世界の扉を開き、時間を忘れて夢中になる楽しさ、たくさんの物語や言葉を知る喜びを教えてください。まだ本を知らないアジアの子どもたちに絵本を届けるため、日本語の絵本に現地語の翻訳シールを貼り、届ける取り組みです。



©Yoshifumi Kawabata

STEP 1



絵本に翻訳シールを貼る

STEP 2



集まった絵本を海外へ

STEP 3



アジア各国の子どもたちに届く「なにをたべてきたの？」(佼成出版社)

パネル貸出

学校の文化祭や社内イベントなどで、アジア各国での取り組みについて知ることができ「活動紹介パネル」を貸し出しています。

講演申込

アジア各国での図書館活動や学校建設、防災や緊急救援に関する取り組みなど、さまざまなテーマで講演依頼を受け付けています。

イベント開催

企業や労働組合、図書館などでイベントを企画したり、「絵本を届ける運動」の体験会の実施も承っています。



マイナ鳥と 不思議な かぼちゃの種



1

オミッドはある日、森で足が折れて鳴いているマイナ鳥を見つけた。オミッドが足を布でしっかりと巻いてあげると、マイナ鳥の痛みが和らぎ、オミッドに感謝しながら飛び去って行きました。



2

家に帰ると、さつき助けてあげたマイナ鳥が木の枝にとまっており、かぼちゃの種をくれました。

3

マイナ鳥が「この種をまけば、大きくて甘いかぼちゃが育つよ」と言うので、かぼちゃの種をまいてみました。すると芽が成長して、どんどん大きくなりました。



ある日、近所に住む少年が、どうやって良い暮らしができるようになったのかを聞きにきました。鳥からもらった種を育てた話を聞いた少年は、罌を作り、マイナ鳥を捕まえました。鳥を捕まえた少年は、足を折り、折れた足を布で巻いてあげたのです。マイナ鳥は少年に怒りを感じながら飛び去っていきました。

6



7

少年の顔はとても醜くなり、少年の友達が彼の顔を見ても誰だか分からないほどでした。少年はマイナ鳥にひどいことをしたと深く反省し、もう二度とこのようなことはしないと誓うのでした。

5



4

かぼちゃを割ると、中に寶石がたくさん入っていました。オミッドは宝石を市場で売ったお金でお店を作り、商売を始めました。商売のおかげで良い暮らしができるようになりました。



数日後、マイナ鳥は少年にかぼちゃの種を渡しました。少年は鳥からもらった種をまき、大きなかぼちゃへと成長しました。大きくなったかぼちゃを二つに割ると、たくさんのハチが飛び出し、少年は顔や体を刺されてしまいました。

Hot Topics

① 難民帰還の現状

2016年に71人が帰還して以降、第二陣の帰還予定が滞っていましたが、2018年5月に93人が帰還しました。しかし、帰還先の安全性など詳細が分からないとの理由から、帰還を希望する人が少ないのが現状です。



② 国際NGOの事業縮小

2019年から難民キャンプ委員会の運営支援が減り、保育所への昼食提供と生計向上事業が終了します。委員会では人員削減を行い、事務所の開館日を減らすなどの対応をしています。キャンプ内の運営・安全管理が不安視されています。



③ メラウ難民キャンプでの土砂崩れ

雨季にメラウ難民キャンプで大規模な土砂崩れが発生。12人がケガで病院に運ばれ、2歳の子どもが1人死亡しました。また、7人の行方不明者が報告され、うち数人の死亡が判明しました。母を亡くし、家を無くし、自分もケガをした青年もあり、建物の復興と共に遺族の心のケアも必要になっています。



BRC事務所 コーディネーター

山内乃絵 やまうちのえ

PROFILE

専門商社の営業として勤務後、2014年にクラフトエイド担当としてシャンティに入職。事業サポート担当を経て、2018年6月より現職。モットーは、常に自分らしく、笑顔で過ごすこと。

④ 3種類の研修の実施

学校教員向け、図書館青年ボランティア向け、図書館員向けの3つの研修を実施。読み聞かせや折り紙、ゲーム、歌などの手法を伝えました。参加者から「またやって欲しい」「読み聞かせの大切さが分かった」などの感想が寄せられました。



From BRC

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

難民帰還の動きに合わせた支援が求められています。国際NGOの事業が縮小しつつある難民キャンプでの活動を紹介します。

難民の心の居場所へと 変化した図書館の存在

2000年から、タイ・ミャンマー国境沿いにある7カ所の難民キャンプで図書館の運営支援を行っています。当初は、教育の大切さを親が理解していなかったり、読み聞かせや歌の意義を図書館員が理解できず辞めてしまっこともありました。現在は、50〜100人の子どもたちが図書館へ日々通うようになりまし。基本的にキャンプの出入りは禁止され携帯電話の電波が入らない所もあります。そのため、キャンプ外の情報を気軽に得ることはできません。図書館には子ども向けの絵本以外に、大人の利用者向けに海外のニュースが分かる新聞や雑誌、小説などを配架。住民たちにとって外の世界の情報を知り得る場所になっており、心を休める居場所としても機能するようにになりました。

事業が縮小する中で 今できることを精一杯に

現在、このキャンプを支援するシャンティを含む国際NGO全体が資金難に直面しています。その中で、これまでの良い流れを止めず、最低限の活動を維持できるように努めること。そして、関係者全員が幸せな形で次のステップを迎えるサポートをしたいと思っています。



地元のおすすめを紹介します！

2つの難民キャンプに行く時は、カンチャナブリー県に宿泊します。日本の戦争の歴史を見ることのできる地としても有名です。映画で取り上げられたこともあるクウェー川鉄橋(写真①)は、第二次世界大戦中に日本軍が建設した泰緬鉄道にかかる橋梁の1つです。J A E T H 戦争博物館(写真②)では、泰緬鉄道建設のため強制労働に従事させられた捕虜たちの過酷な環境を再現し、展示しています。また、泰緬鉄道建設で命を落とした兵士たち6982人が眠る連合軍共同墓地(写真③)があり、綺麗に手入れされた場所に墓石が整然と並んだ様子を見ることができます。

第二次世界大戦の歴史が残る悲しみの地を訪れて



9:00 モニタリング開始
図書館の設備や図書館員の記入している貸し出し記録などをチェックします。



11:00 読書推進活動の場を確認
学校図書室の様子をチェックし、図書館青年ボランティアが行う読書推進活動の場所を確認します。



16:00 キャンプ事務所の訪問
難民キャンプ事務所を訪問し、キャンプで起こっている近況を確認します。



18:00 夕食
キャンプに行っている時は外食です。ガバオや目玉焼きをよく食べます。



8:00 出勤
キャンプに行く時は前日から近くの街に宿泊しています。ドライバーのチャボさんと一緒に車でキャンプに向かいます。



7:00 朝食
朝はコーヒーのみ。飲んでから仕事に行きます。



6:30 起床
起きたらまずテレビでニュースをチェックします。

子どもたちに生きるための技術や知識を与えたい

タムヒン難民キャンプとバンドンヤン難民キャンプの図書館運営をサポートしています。事務所のあるメーソットから2つのキャンプまでは、車で約9時間。出向く際は、前日から泊まりがけです。

図書館で子どもたちと触れ合ったり、研修の講師として学校の先生や図書館員に技術指導をすることは楽しく、研修の時間をオーバーして話してしまうことも。さまざまな活動を通して、子どもたちに日々を生きるための技術や知識を身に付けて欲しいと感じています。



20:00 自由時間
友達と電話で話したり、テレビを見て過ごします。



22:00 就寝
家にいる時もキャンプに行っている時も同じくらいの時間に就寝します。

現地スタッフの1日

現地ではどのようなスタッフが活動を行っているのでしょうか。難民キャンプで図書館運営のモニタリングを行うスタッフの1日を追います。

BRC 図書館アシスタント
コーディネーター
マライ・モンコーン
ウィブーンポーンさんの
1日に密着



PROFILE
2003年8月入職。娘1人と息子2人のママ。テレビでニュースやドラマを見るのが好き。

Hot Topics

① 年次会議を開催

ウズベキスタンで実施した会議では、事業に関わる職員全員が参加。日頃の活動状況を共有し、課題と解決策について話し合いました。日頃ではできない議論を、ひざを突き合わせて協議することができました。



② 3年延期された議会選挙が実現

選挙制度の未整備や治安の課題などもあり、長らく延期されていた下院選挙の投票が10月に行われました。国内190カ所以上の場所で襲撃が相次ぎ、混乱が生じました。地方の多くでは、投票所として学校を使用しており、教育環境への影響が懸念されました。



③ 水・衛生教育支援事業開始

2018年9月から国内避難民やパキスタンからの帰還民を対象とした、水・衛生事業を開始しました。事業では、ナンガハル県・クナル県において、対象者の水へのアクセスを改善したり、衛生管理に関する知識の習得と認識の向上に努めます。

④ 受益者の声

子ども図書館にほぼ毎日通うムスバフッティンさん。楽しい活動ができる子ども図書館を友達に勧めており、自分が活動に参加するだけでなく、得意な算数や英語を年下の子どもたちに教えて勉強の手助けをしています。



From Afghanistan

アフガニスタン事務所

2001年のタリバン政権崩壊後、国際社会の支援で教育の復興が進められるも、いまだ課題が山積するアフガニスタン。活動の「今」をお伝えします。



アフガニスタン事務所
浅木麻梨耶 あさきまりや

PROFILE

大学院在学中の2016年に、BRC事務所にてインターンとして活動した後、2017年5月入職。モットーは“hold on tightly, let go lightly” Peter Brook (死守せよ、だが軽やかに手放せ)。

治安の悪化と課題の複雑化が進む中で、平和を求める声はだんだん大きくなっています。この声に寄り添った支援ができるよう、そして声をあげられない人々、助けを必要とする人々へ支援を届けられるよう、現地スタッフと気持ちを一つに頑張っていきたいです。

拡大する平和を求める声に寄り添った支援を

治安悪化のため2007年に日本人スタッフが退出したアフガニスタン事務所では、学校建設や図書室整備、学校外教育活動といった教育開発事業と、帰還民や国内避難民を対象に、子どもの保護と緊急下での教育を推進する緊急救援事業を行っています。現地では、いまだ紛争が続きます。子どもたちが安全に学習したり、自由に遊べる場所や機会が限られています。難民の帰還や国内の紛争により出現する国内避難民、そして、地震や干ばつといった自然災害も重なり、課題はさらに複雑化しています。

大学院在学中にBRC事務所のインターンに参加したのがきっかけで、活動に携わるようになりました。図書館や絵本が人々やコミュニティを支えていることを体感し、もっとシャンティの活動を見たいなと思ったのです。

子どもたちの笑顔のため活動を通して平和を祈る



豊田通商株式会社

人事総務部社会貢献室 室長 梶原 優樹

豊田通商は、「良き企業市民として人・社会・地球との共存共栄を目指し、グローバルな社会貢献活動を通して、豊かな社会づくりに貢献すること」を、社会貢献活動における基本方針としています。2007年に東京、名古屋、大阪の三拠点ではじまった「絵本を届ける運動」は、2010年には全国の拠点が参加し、これまでにのべ2200人の社員が約3000冊の翻訳絵本作りに参加していただきました。

社員に社会貢献活動への参加を促している社会貢献室室長の梶原さんに、同社の取り組みについてお話を伺いました。

行っています。

近年、社会課題の解決を起点にしたビジネスを創出する「アウトサイドイン」の認知が広まっています。社内でも、若手社員が有志で新規ビジネスのための意見交流を行うなど、積極的なオープンイノベーション活動が見られるようになってきました。

社会貢献への取り組みについては、企業理念に照らし、人(教育)・地球(環境)・社会(福祉)の3つを重点テーマと位置づけ、積極的に取り組んでいます。

そんな社会貢献活動の一つとして、各拠点の社員たちにお昼休みなどを使って「絵本を届ける運動」に参加してもらっています。女性だけでなく、男性社員の参加も多く、また、仕事が忙しいためお昼休みに参加できないが、家に持ち帰ってやりたい、子どもと一緒にシールを貼りたいという人も多くいらっしゃいます。

豊田通商は「人・社会・地球との共存共栄を図り、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業を目指す」ことを企業理念としています。この企業理念およびGlobal Vision「Be the Right ONE」の実現を目指す上で意識すべきCSR上の重要課題の特定を行い、2018年3月に「CSRマテリアリティ(重要課題)」を策定しました。社員ひとり一人がCSRマテリアリティを意識して事業活動に取り組むことで、持続的に成長し、社会課題解決やSDGsへの貢献につなげていくことを考えています。CSRマテリアリティに

は、17あるSDGsの目標のうち、12の目標が盛り込まれています。CSRマテリアリティを社内へ浸透させるために、社内報で取り上げたり、eラーニングを通じてSDGsの理解促進を行ったりしています。

事業を通じた社会課題への解決事例としては、電気自動車のバッテリーに使われ、低炭素社会への移行に貢献できるリチウム資源確保に取り組んだり、ケニアで技術者養成としてのアカデミーを設立するなどにより、「事業創造」のみならず「人材育成」「社会貢献活動」を通じてアフリカの自立的発展に貢献することも



上:アルゼンチンのリチウム資源生産現場 下:人材育成センター「トヨタケニアアカデミー」

「絵本を届ける運動」は、社員が参加しやすい仕組みであると同時に、絵本を届けた先の現状や社会課題について、興味や関心を持ってもらう良い機会となっています。

ですが、社員に参加してもらうことは簡単ではありません。社員一人ひとりの社会貢献に対するマインドを高めることが昨今からの課題です。活動への参加で満足するのではなく、CSRは経営戦略そのものでもあり、取り組みが自分たちの中で終わるのではなく、社外にも強く認知されるようアピールすることにも力を入れてまいります。

今後は参加するだけでなく、自分が貼って作った翻訳絵本が現地に届くことで、どのような変化や成果が生まれ、社会にどのような貢献を果たしたのか、社員に伝えていく方法を考えていきたいと思えます。

(聞き手:広報課 広報担当 沼田宏安)

シャンティからのお知らせ

インドネシア・スラウェシ島地震の緊急救援活動を実施

2018年9月28日にインドネシア・スラウェシ島中部で発生したマグニチュード7.5の地震を受け、緊急救援担当職員を派遣し、被災地での聞き取り調査や物資配布などの緊急救援活動を行いました。



ドゥアン・プラティープ財団40周年式典にタイ王女がご臨席

2018年8月27日に開催されたドゥアン・プラティープ財団の40周年式典に、タイのウボンラット王女がご臨席されました。式典には、シャンティ国際ボランティア会の会長 若林恭英も出席いたしました。



(写真左:若林会長、右:ウボンラット王女)

人事のお知らせ

●入職

竹本 舞
事業サポート課 海外緊急アシスタント(10月1日付)

●異動

菊池 礼乃
ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所 → 東京事務所 事業サポート課(10月1日付)

●退職

岡本 喜代一
クラフトエイド課 課長(11月30日付)

古賀 東彦
南相馬事務所 所長(12月31日付)

2019年度総会のお知らせ

2019年度総会を下記の通り開催いたします。ぜひご参加ください。

日時:2019年3月27日(水) 15:30~
会場:聖心グローバルプラザ
第一部:総会 第二部:講演会
(登壇者)八木澤 克昌 シャンティアアジア地域ディレクター
申込方法:電話、FAX、メールでご連絡ください。
(社員会員の方には2月下旬、出欠確認のハガキをお送りします)

シャンティ 2019年冬号(通巻298号) | 2019年1月1日発行

発行人:若林恭英
発行所:公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp
編集人:関尚士、鈴木晶子
編集・制作:株式会社文化工房
印刷:株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



エポ・クレイ 9歳

これがわたしの宝もの

エポ・クレイの宝もの
猫のワー・ワー・ポー

これがわたしの一日

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ

- 6:00 起床
顔を洗い歯を磨き、シャワーを浴びたら、学校の本を読みます。
- 7:30 朝食
魚のペーストと野菜をよく食べます。ときどきカレーの日も。
- 8:00 登校
おばさんとお姉ちゃんと歩いて学校へ。
- 8:30 授業
英語の本を読むのが好きで、英語が話せるようになりたいです。
- 11:30 お昼休み
お弁当を食べたら友達と遊びます。ゴム跳びで遊ぶのが好きです。
- 14:30 下校
シャワーを浴びて、おばあちゃんのお手伝いをします。
- 17:00 夕食
魚のペーストと野菜をよく食べます。好物は魚のカレーです。
- 18:00 自由時間
猫と遊んだり、本を読んだり、おばあちゃんに宿題を教えてもらうことも。
- 21:00 就寝

いつも一緒にいる大好きな愛猫

おばあちゃん、おじいちゃん、お姉ちゃんと親戚3人の合計8人でメラ難民キャンプで暮らしています。私は休日になると猫と遊んだり図書館に行ったり、友達の家遊びに行ったり、おばあちゃんのお手伝いをして過ごしています。そんな私の宝ものは、愛猫のワー・ワー・ポーです。家から少し遠い所に暮らす知り合いから譲り受けて、飼うようになりました。初めて彼女と出会った瞬間、とても幸せな気持ちになりました。彼女はとてもいい子で、一緒に遊んでいるとても嬉しそうにしています。夜はいつも一緒に寝ていて、ときどきネズミを捕まえてくれます。学校に行くときには、道の途中で私を見送ってくれます。私はそんな彼女がとっても大好きです！